

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

# さっぽろ 市議団ニュース

<第1回定例会>

2017年3月27日

No. 178

日本共産党札幌市議団 事務局  
tel 211-3221 / fax 218-5124

## 精神障がい者の運賃割引——“3障がい一元化”のもと、これ以上待たせてはならない！

太田秀子議員が質問

日本共産党の太田秀子議員は22日、予算特別委員会で精神障がい者(3級)の運賃割引制度について質問しました。

太田議員は、共産党がこの問題をくり返し取り上げ、「精神障がい者の運賃割引制度は実施されることが望ましい」と市長が答弁しながら一歩もすすんでいないと強調。「どのような課題があり、検討状況はどうか」「交通局が先行実施した場合の課題と費用はどれくらいか」とたずねました。

菱谷事業管理部長は、「バス、地下鉄、路面電車の各事業者が歩調を合わせる事が基本」「地下鉄では(サピカは使えず)券売機で切符を購入することになる。現行の地下鉄とバスの乗り継ぎ割引が困難になる」「交通局(地下鉄と市電)の減収は、平成27年度実績で年間約2.7億円」とのべました。

太田議員は、「2.7億円はすでに実施している精神障がい1・2級を含めた金額。精神3級では1.2億円にしかない」と指摘し、「2015年度決算で交通局は99億円の黒字でこの10年間連続黒字となっており、企業債残高もピーク時の1998年5,170億円から2017年予算では2,812億円と順調に減っている。1.2億円が負担できないとは思えない」「券売機の購入も問題なく、負担が減ることはうれしいと当事者がいっている」とのべ、「国は知的・身体・精神の3障がいを一元化し、標準約款を改定し運賃割引の対象に精神障がい者を加えている。これ以上、待たせるのか」とたずねました。

菱谷部長は、「実施することは難しい」としつつ「どう対応すべきか、関係者間で連携をはかりながら検討していきたい」とのべました。

## ゼロ歳から就学前まで、希望者全てが入所できる認可保育所を——「供給の確保に努めたい」

池田由美議員が質問

日本共産党の池田由美議員は24日、予算特別委員会で待機児童対策について質問しました。

池田議員は、保育の充実を願う9万人の署名が本市に提出され、保育連絡会の“保活”実態アンケートに「何園も見学したが空きがなく、むなしかった」「無認可でお金がかかり送り迎えも大変、2人目も欲しいが考えてしまう」などの声が寄せられていると紹介。「これをどう受け止めているのか」「待機児童は1,599人(昨年10月)と整備数を上回るが、減らない状況をどう分析しているのか、848人が『特定保育所のみ希望し入所していない児童数』だが、その理由は何か」とたずねました。

中出支援制度担当部長は、「女性の社会進出が進むなかで保育を望む保護者が増えている」、保育所の整備で「潜在的な保育ニーズが喚起されている」とし、「特定保育所のみ希望」については「圧倒的には自宅に近い保育所で、次いで上の子が入っている保育所に預けたいというもの」とのべました。

池田議員が「特定保育所のみ希望」について、「当然の願いではないか、相談にはどう対応しているのか」とたずねると、中出部長は「全く同じ気持ちであり非常に理解できる」としつつ、「可能な限り希望に沿えるよう入所調整の基準表(点数)を改定した。保育コーディネーターや職員が利用可能なサービスを紹介する」などと答弁。池田議員は、「保育所が足りないことが問題。ゼロ歳から就学前まで入所し続けられる認可保育所を増やし、希望するすべての人が入所できるようにすべき」とたずねると、中出部長は「小学校就学前までの一貫した保育サービスを保障することは非常に重要」「適切に供給の確保に努めたい」とのべました。